

- ポルシェジャパン、「カイエン」シリーズの計4車種の燃料ポンプフィルターフランジに不具合があるとしてリコール
02年12月24日～06年9月26日に生産した3601台
燃料ポンプフィルターフランジの取付位置が不適切な為、フランジ部が雨水等の被水により劣化することがある。その為、フランジ部の強度が低下し、そのままの状態で使用を続けると、燃料の圧力により亀裂が生じ、燃料が漏れる恐れがある。
- UDTラックス、「クオン」のスペアタイヤキャリアに不具合があるとしてリコール
17年4月28日～18年2月22日に生産した874台
スペアタイヤキャリアを車体に固定するボルトやナットの締付けトルク不足により、軸力が低下していることがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、走行時の振動等によりボルトやナットが緩み、最悪の場合、ボルトやナットが外れ、キャリアとともにスペアタイヤが脱落する恐れがある。
- トヨタ自動車、「ダイナ」「トヨエース」の駐車ブレーキに不具合があるとしてリコール
07年8月13日～16年10月4日に生産した4万2076台
手動式駐車ブレーキレバーを引き上げた際、保持機構のばね力が不適切な為、保持用ギヤの歯先同士がすり合った状態で保持されると、振動等が加わった場合につり合いが外れ、レバーが解除されることがある。その為、駐車制動力が低下し、最悪の場合、駐車中の車両が動き出す恐れがある。
- マツダ、「CX-5」「アテンザ」のディーゼルエンジン不具合について、改善対策が不十分だったとしてリコール
2014年12月、ディーゼルエンジン用オイルフィルターの不具合により、ブレーキアシスト力や加速性能が低下するとして、改善対策を届け出た。しかし、改善対策が不十分で、同様の不具合が発生する恐れがあることが判明した為、より重要度の高いリコールとして届け出た。不具合の起因となっているのは、オイルフィルター。前回の改善対策では、対策品に交換するとともにエンジンフードに純正外のオイルフィルターを使用しない旨の注意ラベルを貼るとしたが、使用者への周知が十分でなかった為、リリーフバルブの開弁圧が不適切な純正外オイルフィルターの使用が一部で続いた。その結果、エンジン内部で発生する金属粉がオイルフィルターで十分に捕捉されず、バキュームポンプやターボチャージャーに混入。ブレーキアシスト力や加速性能が低下したなどの不具合がのべ348件、市場より報告された。
12年2月13日～13年9月27日に生産し
- ジャガー・ランドローバー・ジャパン、ジャガー及びランドローバー計14車種のメーターパネルユニットに不具合があるとしてリコール
メーターパネルユニットの制御プログラムが不適切な為、ユニット内部の温度を異常検知し、強制的に再起動することがある。その為、走行中にメーターパネルが消灯し、速度計または警告灯等が表示されない恐れがある。
16年10月27日～17年11月29日に輸入した18
- ジャガー・ランドローバー・ジャパン、ランドローバー「レンジローバーイヴォーク」「ディスカバリースポーツ」のトランスミッションコントロールモジュールに不具合があるとしてリコール
13年10月25日～15年9月22日に輸入した19
トランスミッションコントロールモジュールのプログラムが不適切な為、シフト制御用センサー配線接続端子の製造上のばらつきによる電気抵抗変化を異常として検知することがある。その為、走行中に警告灯が点灯し、ギヤがニュートラルになり走行不能となる恐れがある。
- 日野自動車・いすゞ自動車、日野「セレガ」「メルファ」、いすゞ「ガーラ」「ガーラミオ」の駐車ブレーキレバー用コンソール・吸気パイプ・VSC(横滑り防止装置)オフスイッチなど計3か所に不具合があるとしてリコール
14年2月19日～18年3月6日に生産した771
駐車ブレーキレバー用コンソールについては、大型バスで固定方法が不適切な為、当該コンソールと運転席仕切りの間に物をはさむとコンソールがずれて、駐車ブレーキレバーと干渉することがある。その為、駐車ブレーキレバーを引き上げるとロック位置の手前で保持され、最悪の場合、エンジンの振動等によりレバーが解除され車両が動き出す恐れがある。吸気パイプについては、大・中型バスにて、栓プラグの取付け構造が不適切な為、高負荷走行時の内圧によりプラグが抜け、走行中にエンジン出力が低下するとともに栓プラグが路上に脱落する恐れがある。VSCオフスイッチについては、大型バスにて、識別表示が不適切な為、協定規則第121号に適合しないことが判明。全車両、VSCオフスイッチを正規品に交換する。